謹賀新年

一陽来復の春　謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

市民の皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

また、日頃より市政各般にわたりまして、格別のご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、公約のひとつでもあります地区懇談会を開催し、皆さま方から多くのご要望やご意見を頂戴しました。いただきましたご意見等は、市政改革への大きな期待と真摯に受け止め、これからも市政運営に邁進してまいりたいと思っております。そして、公約に掲げております項目の多くは、まだ緒に就いたばかりでありますので、これから実現に向けて一歩一歩取り組んでまいる所存でございます。

さて、わが国の社会情勢は、長期化する厳しい経済状況に加え、東日本大震災からの災害復興、原発問題、防災・減災対策、社会保障と税の一体改革、医療、環境、産業、教育等さまざまな課題が山積し、地方の経済状況も厳しさを増しております。香南市におきましても、今後、国からの普通交付税の減少が考えられることから、益々厳しい財政運営を強いられることは必至の状況です。そのような状況だからこそ、将来を見据えた効率的で効果的な予算編成が必要であり、本年も、徹底した行財政改革による財源の捻出を行い、重点施策の着実な実施に全力を傾注してまいります。

市民の皆さま一人ひとりの声が届く開かれた市政、ここに住んでみたいと思えるような香南市を目指し、取り組んでまいりたいと思っておりますので、今後ともご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆さまにとりまして、本年が幸せで実り多い年となりますよう、心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

平成25年元旦

香南市長　清藤 真司

新副市長に野中明和（のなかあきわ）氏が就任しました

就任あいさつ

昨年12月に副市長に就任させていただきました、野中明和でございます。

平成25年新春、市民の皆さまも新たな気持ちで新年をお迎えのことと存じます。

合併から8年目を迎える我がまち香南市にとりましても、市民の皆さま、お一人おひとりが心から住んでよかったと思えるまちに発展するための、大事な時期であると実感しております。皆さまのより良い市民生活を支えるための行政施策を実現することはもちろんのこと、少子高齢化対策や産業振興といった社会経済問題への対応に加え、必ず発生すると予測されている、南海トラフ巨大地震対策を早急に図ることが、中でも重要な課題となっております。

市民の皆さまとともに行動できる行政を目指しながら、夢や希望の持てるまちづくりの実現に向け、清藤市長を先頭に市役所職員一同取り組んでまいります。

最後に、市民の皆さまにとりまして、より良い年でありますよう祈念し、就任並びに新年のごあいさつといたします。

平成25年1月

香南市副市長　野中明和

profile

- ●1950年9月28日生まれ（62歳）・O型
- ●三重県津市出身
- ●芝浦工業大学建築工学科卒業
- ■職歴：都市計画コンサルタント、衆議院議員公設秘書、静岡県掛川市まちづくり第三セクター事務局長、旧夜須町助役、手打ちそば店主
- ■趣味：旅行、ゴルフ　■座右の銘：人間万事塞翁が馬

Hot News Now Topics

まちの話題

▲吉川みどり保育所園児が描いた壁画

不法投棄は許さない　吉川海岸不法投棄　ごみ清掃

11月18日（日）吉川海岸で、地元住民をはじめ赤岡中学校、城山高校、自衛隊など約150人が参加し、一斉清掃が行われました。県中央東福祉保健所や市などが地元に呼びかけ、毎年清掃活動を実施。この日も、空き缶や瓶、家電製品、タイヤなど約7トンのゴミを集めました。また、ごみを捨てさせない環境にしようと、堤防に「笑顔」をテーマにした啓発用の壁画を描く取り組みも進められています。参加者は「きれいな吉川海岸が戻る日まで、清掃も壁画の制作も続けていきたい」と話してくれました。（関連25ページ）

▲【写真左】清掃活動に貢献し、表彰を受ける赤岡中学校
【写真右】清掃を行う自衛隊曹友会のメンバー

4コマ漫画ができた!　まんが家訪問授業 in佐古小学校

▲おかもとあつしさんに褒められる児童

11月26日（月）佐古小学校に漫画家の「おかもとあつし」さんが来てくれて、4年生1・2組の児童44人に4コマ漫画を教えてくれました。子どもたちは、おかもと先生から3つの基本「楽しんで描く」「自分がおもしろいと思ったことを描く」「人を傷つけることは描かない」を教えてもらって、4コマ漫画づくりに挑戦。起（始まり）承（発展）転（意外）結（オチ）の流れで作った作品を見てもらい「ここいいね」と褒めてもらったり、アドバイスしてもらいました。普段は見て楽しむ4コマ漫画を描いて楽しむことができました。【写真・文章提供：佐古小学校】

物部川のこと学んだよ　野外学習会　環境学習と鮎の産卵

11月30日（金）物部川下流の横瀬地区の堤防内広場で、吉川小学校2年生13人が物部川漁協主催の野外学習を行いました。

この日は禁漁期間にあたりますが、特別採捕許可を得て鮎を捕獲。鮎から取り出された卵を目の当たりにし、児童らは驚きの表情を見せていました。鮎の一生の話では「生存期間は1年で、一匹につき2～3万個を下流で産卵。1,000匹に1匹が上流へ帰って来ます」と説明がありました。児童からは「鮎は何を食べるの?（答：苔（こけ））」「鮎のおいしい食べ方は?（例：塩焼き・寿司など）」といった質問が出され、物部川のことを知り、関心をもってもらう良い機会となりました。

▲鮎の産卵について説明を聞く吉川小学校児童

22km、山越え谷越えランニング　第1回土佐塩の道　トレイルランニングレース

▲【写真左】勾配のある塩の道を走る参加者
【写真右上】香美市奥物部ふれあいプラザよりスタート!
【写真右下】香我美町山北公民館前でゴール!!

12月2日（日）香南市と香美市を結ぶ土佐塩の道で「第1回土佐塩の道トレイルランニングレース」が開催されました。コースは香美市物部町大栃の奥物部ふれあいプラザから香我美町の山北公民館前までの22km。事前に募集形式で80人を募ったところ、約160人の応募があり、人気の高さが伺えました。参加者は思い思いのスピードで塩の道を駆け抜け、沿道からの応援や、中継地点の地域のボランティアに笑顔で手を振って応えていました。